

(会長)

本日は日曜日にもかかわらず、大変忙しい中、しかも遠方までおいでいただきありがとうございます。

梅雨のさなかですが、おかげさまでこのように晴れやかな気持ちのいい天気となりました。今日は激励なり、参考になるご意見をいただけるといことで私たちも楽しみにしていますのでよろしくお願いします。

(知事)

それでは私から一言お礼申し上げます。さわやかトークということで、県内の各地域において、地域の特産品などを研究しているグループを訪ねさせていただいています。これにはいくつかのねらいがあるのですが、一つは、激励させていただきたいということ。もう一つは、こういう活動をしているグループがあるということを他の地域の方々に知ってもらうということ。県のホームページにすぐ載せますからそれで知っていただけます。それから、このような活動をしているグループがあることを知ってもらうことにより、他の地域で活動している方々との連携が進み、刺激し合うようになるとか、市場が広がるとか、相互に補完し合うとか、ネットワーク化してそれぞれの特色を生かし、活動を点から面にしていけるようになればいいというような思いで訪ねさせていただいています。

竹田城跡のふもとの「山城の郷」って、どんなところかなと思って参りましたが、こんな立派な施設だったので少し驚きました。これだけの施設で生産して販売していくのは容易じゃないですね。よほど皆さんの結集がないと大変ではないかと思いますが、きょううまくやられるのだろうと期待しております。ほんとに今日はありがとうございます。



加工施設を視察する井戸知事

(会長)

それでは、私たちの自己紹介をさせていただきます。

(会員)

私は藤和地区の区長です。

(知事)

「山城の郷」ではどういう役職ですか。

(会員)

副会長です。

(知事)

4地区あって、各地区から会長、副会長を出しているということですか。

(会長)

そうです。地区をあげてこの施設をもり立てていこうということです。

(会員)

私は安井地区の区長です。

(会員)

私は殿地区の区長です。

(知事)

この「山城の郷」のある場所はもともとどんなところだったのですか。



(会員)

一部農地がありましたが、ほとんどは山でした。

(知事)

そうすると山を切り開いてつくったということですか。結構大工事だったでしょうね。「山城の郷」だから城郭をイメージされたわけですか。竹田城跡が本丸とするとここは出城ですね。

(会員)

昔から、安井と殿の方に登城の道がありまして、家臣の屋敷も殿あたりに分散してあったようです。殿というようなめでたい名称もそうして付いたようです。

(知事)

なるほど。

(会員)

私は運営部長をしています。都市との交流ということで、神戸の団地に伺い、農産物などを販売しています。

(知事)

車に農産物を積んで出前直販みたいなものですか。1回あたりの売り上げはいくらぐらいですか。

(会員)

4、5万です。多いときで8、9万。

(知事)

10人で行ったとしたら、1人4千円。それではだめじゃないですか。

(会員)

売り上げは別として、都市との交流ということでやっています。

(知事)

ちょっと仕掛けをしているわけですね。(笑い)

しかし大変ですね。どういう販売作戦を立てていくかですね。

(会員)

私は農産物生産部長をしています。この施設ができるということで、平成11年頃から何か特産品をつくらうということで、青大豆、白大豆、黒大豆、それからこんにゃくいもを栽培して、各集落共同で研究してきました。そして山城の郷生産組合を結成し、都市との交流での販売や農協を通じて日曜日の朝市に農産物を出しています。また、昨年から地元のジャスコにも出して欲しいということで、木曜と日曜に出荷しています。しかし、この「山城の郷」で使う分もいりますし、会員も忙しくて、なかなか思うような量が生産できないという状況で大変です。

(知事)

朝市とかスーパーでの販売を始めると、ある程度の量をコンスタントに出していかない

といけないでしょ。その辺は何か工夫されているのですか。

(会員)

それが大変なんです。ほうれん草でも大根でもすぐにとっがって出荷できないということがありますし。

(知事)

そうでしょう。大屋町で高原野菜の出荷体制の話聞いたことがあるのですが、そこでは出荷日から逆算して全体の圃場を区切って、ここは何月出荷分というように1年計画を立てて割り付けていましたよ。

(会員)

大屋高原のように1箇所栽培されている場合はできるのですが、個人個人で栽培している場合は難しいです。



(知事)

そういうところで生産組合の調整機能を発揮されて、2割くらいは補償するとかしないと。市場の価格変動で高い時に誰でも出荷したいわけですから、安い時にでも安定して出荷するためには補償がないと。こういうことの相談は農業技術センターと町と農業改良普及センターが得意とするところでしょう。しかし、コンスタントに出すということが一番大変なことですね。

(会員)

私は景観形成部長です。県からいただいた桜の苗木も敷地内に植えております。それから農園管理部を発足させ、豆腐の材料となる大豆を栽培したいと考えています。

(知事)

大豆の栽培は機械化が難しいから大変でしょう。収穫なんかは手作業ですし。丹波地域の夢ビジョン会議で、「丹波の黒大豆がこんなに全国的に有名なんだから作付け面積を倍増したらどうか」と言ったことがあるのですが、そうしたら「私たちが殺す気ですか」と怒られました。(笑い)

(会員)

私はイベント部長です。この7月6日の日曜日には2周年のイベントをします。

(知事)

イベントでどう売り込むかが大切ですね。

(会員)

但馬まるごと感動市とか但馬・食文化まつりとかに合わせて連携会場としてイベントをしています。

(知事)

都市の団地の人たちとかグループを募集してそういう人たちと交流したらどうですか。そうしたらイベントの固定客ができる。

(会員)

私はこんにゃくの加工を担当しています。

(知事)

こんにゃくはどのくらいつくるのですか。

(会員)

週に2回、4キロづつくらいつくります。

(会員)

私はパン部門担当ですが、今日はかき餅づくりをしていました。

(知事)

パンは1日どのくらいつくるのですか。

(会員)

あんパン、メロンパン、クリームパンをだいたい20個づつと食パンが17本から20本ぐらいです。

(知事)

朝は何時から仕事を始めるのですか。

(会員)

7時です。エコープへの出荷が9時半。パンも3月から国内産の小麦粉を使い、豆乳

を加えているのですが、なかなか難しい。

(知事)

難しいというのは、国産小麦だと粘りが無いのですか。

(会員)

ありすぎるんです。それに漂白もしていないので、お客さんになじんでもらえない。

(知事)

但馬の黒パンとかで売り出したら。(笑い)

それで味の方はどうなんですか。

(会員)

焼きたては変わらないですが、しばらくすると豆乳のおいなのか、味が変わるんです。それがなかなかお客さんになじんでもらえないんです。



(知事)

それは豆乳入りということをPRして、特色付けないと。

(会員)

方針として自然食を提供するということなんです。

(知事)

それはとってもいいことです。県でもごはんを食べよう、大豆を食べよう、減塩しようという食の健康運動を展開しているんですが、豆乳入りパンも宣伝して売り出さないといけませんね。

(会員)

売り出すというのが一番苦手なところでして。しかし、これからは考えていかなければと思っています。

(知事)

大豆とかこんにゃくいもの生産は、使う分の量がまかなえているのですか。

(会員)

はい。こんにゃくいもをつくるには涼しいところがいいんですが、私の所は標高450メートルぐらいで涼しくて適している。イノシシも食べないし。

(知事)

こんにゃくいもはイノシシは食べないんですか。

(会員)

はい。また、涼しいところではおいしいお米ができるんです。収穫は少ないですが。

(知事)

この4地区では専業農家の方は少ないのですか。1軒あたりどれくらいの面積をされていますか。

(会員)

平均4反ぐらいです。

(知事)

和田山あたりですと、姫路や加古川などの大消費地が近いですから、野菜を系統的に出すつもりであれば、かなり売れるはずですが。大屋高原は、コープ神戸と契約して、品質は有機でつくるかわりにつくったものはすべてコープが買い上げるようにしている。本当はそういうことを農協がしなければならないのですが。

(会員)

朝市には「花野果(はなやか)会」という銘柄で去年から出荷している。

(知事)

それは農協が音頭を取ってやっているのですか。

(会員)

いえ、役場です。

(知事)

ひょうご安心ブランドの認定も取ってくださいよ。

(会員)

漬物は取っています。

(知事)

野菜も取ってもらわないと。安心ブランドがなかなか定着しないのは量が少ないからなんです。

(会員)

この野菜にはこの農薬というように使う農薬が野菜の種類で決められており、ちょっと違う消毒薬を使ってもだめということで、なかなか野菜の基準は難しい。

(知事)

そうなんです。ちょっと違うと違反になる。もう少し汎用性のある対応ができないのかと国にも検討をお願いしているところなんです。だいたい発想が大型栽培に向いている。小規模だけど弾力的な農家経営ができるというようにしていかないといけないのではないかなと思うんですけどね。ここがそういうモデルになってください。(笑い)

ところで、加工所は何人でやっているのですか。

(会員)

地区の女性 8 人とパン専門に 1 人来てもらっています。

(知事)

あれだけ立派な加工所で 9 人ですか。

(会員)

最初は、各地区から 3 名ずつ出て 3 年間の勉強期間を農業改良普及センターの普及員にお世話いただいたのですが。



(知事)

そうすると 1 2 名いたわけですから、4 名は脱落ですか。

(会員)

いえ、年齢的にきつくなってきたとかで、仕方なくです。



(知事)

新しい人は入ってこないのですか。

(会員)

若い人は勤めもありますし、後継者づくりは難しいです。朝来町のみそづくりなんかは80歳台の方が頑張っておられますから。

(知事)

みそづくりの秘伝は教えてくれないでしょう。(笑い) 近くだと教えてくれないから、たとえば上月町あたりまで行ったら、和田山ならいいかということで教えてもらえるかもしれません。

(会員)

そういう技術交流をしてみたいと思っているんですが。

(知事)

「ひょうごの匠」という技術士の方がいるんですが、そういう方に見てもらおうというのもののいいかもしれませんね。そういうルートは県にもありますよ。それこそ農業改良普及センターを使うべきですよ。農業改良普及センターで見つけられなかったら労働部に相談すればいいんです。そうしたらたくさんいる「ひょうごの匠」の中から紹介してくれる。

最後に2年目を迎えて決算の方はどうですか。

(会長)

それなんです、自分たちが値札を付けて商品売るという経験が全くなかったのが、できるようになった。それが魅力であり楽しみでもあるということ。それに交流ができるということも魅力ですし、当面は採算面は仕方ないのではないかと思います。

(知事)

少なくとも運営費を自前でやれるようにしないとだめですよ。運営費まで依存していると経営が確立しない。

(会長)

この施設の立ち上げ当初、各集落と個人がお金を出し合って、自分たちの会社という気概で取り組んでいます。

(会員)

対外的にアピールするとか経営のノウハウとかの能力が私たちだけでは限界がある。視察に行っても表面的なことしか分からないし、何かいい方法はないでしょうか。

(知事)

これまでいろいろなグループと話をさせていただいてきましたが、「山城の郷」のように4集落という、これだけ多くの方が関わっている組織は少ない。それこそ経営コンサルタントが必要なのかもしれませんね。

これからも4つの集落のみなさんが一丸となって取り組んでいかれることを期待しています。今日はどうもありがとうございました。

